



中運交企第92号
令和2年2月28日

東海市地域公共交通会議
会長 佐治 錦三 殿

中部運輸局長



令和元年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】

中部運輸局交通政策部 交通支援室
TEL: 052-952-8050

(別紙) 中部運輸局二次評価結果 令和2年2月28日付け中運交企第92号通知

自治体・協議会名	東海市地域公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・運転免許自主返納者へのバス回数券・タクシー利用助成券の配布や、大府市循環バスとのバス停共用の取組について評価します。

期待する取組

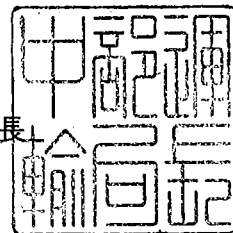
- ・高齢者の交通安全対策等、地域に密着した利用促進策の推進を期待します。
- ・令和2年10月に予定しているダイヤ改正について、市内を運行する知多バス路線との役割分担や、近隣市町との連携、住民との意見交換を行うなど、利便性向上が図られることを期待します。
- ・引き続き広域的な公共交通ネットワークの構築に取り組んでいただくことを期待します。



中運交企第92号
令和2年2月28日

愛知県バス対策協議会
会長 鎌田 裕司 殿

中部運輸局長



令和元年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】

中部運輸局交通政策部 交通支援室
TEL:052-952-8050

自治体・協議会名	愛知県バス対策協議会
評価対象事業	地域間幹線系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・事業評価票を補助対象系統ごとに運営主体が記載し、関係自治体に回付、作成する手法を取り入れることで、関係自治体間の情報・意見交換に活用されていることが確認できました。
- ・関係自治体の協議会においても、地域間幹線系統の利用状況等について情報交換を行う仕組みを構築し、好事例を自治体及び事業者間で共有しています。

期待する取組

- ・地域間幹線系統については、市町村への情報共有にとどまらず、関係する市町村担当者や事業者を交えた路線検討会を設置するなど、近隣県を参考に具体的な検討をお願いします。
- ・自治体と交通事業者が連携した地域公共交通活性化事業の実施など、広域連携事業を展開されることを期待します。
- ・引き続き「あいち公共交通ビジョン」に基づいた関係者の連携のもと、広域的な公共交通ネットワークが構築されることを期待します。

【交通圏】

①補助対象事業者等	②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)					
					【計画目標指標：利用者数】		輸送量(人)		収支率(%)								
					A: 達成	B: 未達成	R1 計画	R1 実績	(平均)乗車密	(運行)回数			H30 実績	R1 実績			
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(株)	41 師崎	河和駅～師崎港	運営主体と沿線の南知多町と連携しHP等に時刻表を掲載するとともに、町内で開催したタウンミーティングでの意見等の情報を共有した。また、通学定期券の販売や町民感謝デーを実施する等の取組みをした。	A	事業計画どおり運行回数が確保されている。	A	目標:89,600 実績:90,520(101.0%) ※前年度比101.8%	45.5	47.3	3.2	14.8	43.0	41.5	町を跨ぐ利用者は、月平均5,800人で全体の61%を占めており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。大部分は、鉄道駅(河和駅)の利用や通院・通学、沿線の総合病院への通院と考えられる。知多南部地区の重要な公共交通手段の一つである。 《地域的・フィーダー的系統》 (南知多町)海っ子バス(西海岸線)	南知多町では、利用者等から、希望している利用内容等の意見を聞き、利用状況等を勘案して意見交換などを行い、バス会社側の状況等も理解していただきながら、運行ダイヤ等の設定を行い、利用促進を図る。 美浜町の自主運行バスの見直しの時期に合わせて、乗継利便性の向上など検討を進めていきたいと考えている。
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(株)	42 横須賀(A)	大府駅前～尾張横須賀駅	沿線市が運行するバスの時刻表に横須賀線の情報を掲載し広く周知を図った。また、東海市では公共交通を利用したてめぐるモデルコースに横須賀線を利用し、市外へ出掛けるコースを掲載し、配布した。	A	事業計画どおり運行回数が確保されている。	A	目標:56,560 実績:87,009(153.8%) ※前年度比102.1%	37.2	48.3	3.9	12.4	78.3	79.0	大府市、東海市ともに高等学校近くに停留所があることや、鉄道駅を結ぶことによる通勤・通学利用者が多い。また、所轄の警察署まで行く手段でもある。 《地域的・フィーダー的系統》 知多乗合(大府線)、東海市循環バス、大府市循環バス	東海市・大府市・知多乗合株式会社の三者が連携し、利用促進に向けた取り組みが必要であるため、引き続き、沿線市も協力してPR活動を継続する。
06東海・半田・大府・常滑・美浜	東浦町	大興タクシー(株)	48 う・ら・ら(東ヶ丘・長寿線)	東ヶ丘集会所～長寿医療センター	公共交通検索サービスを導入することで、利用者の利便性を高めた。また、企画乗車券(10円バス)を導入することで、若年層に対するう・ら・らの周知と利用促進を図った。また、町内の保育園・幼稚園での乗り方教室の実施や、保育園や児童館と協力して、ハロウィンバスやクリスマスバスなどを運行し利用促進を図った。	A	事業計画どおり運行回数が確保されている。	A	目標:82,958 実績:87,280(105.2%) ※前年度比104.2%	21.0	24.3	4.5	5.4	16.9	19.3	利用者の約5人に1人が市町を跨いでの利用となっており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。主に大府市にある長寿医療研究センターや農協関連複合施設(げんきの郷)の利用に使われている。 《広域的・幹線的系統》 知多乗合(東ヶ丘団地線、大府循環線)	高齢者の利用が多いため、若年層にもっと利用してもらえるよう、町のイベントなどでう・ら・らのPRをより積極的に行っていくとともに、利便性を高める施策を実施していく必要がある。また、数年後には小学生の通学利用が減っていく可能性が高いため、通学利用者以外の住民の利用促進を図っていく必要がある。
06東海・半田・大府・常滑・美浜	東浦町	大興タクシー(株)	49 う・ら・ら(平池台・長寿線)	平池台～長寿医療センター	公共交通検索サービスを導入することで、利用者の利便性を高めた。また、企画乗車券(10円バス)を導入することで、若年層に対するう・ら・らの周知と利用促進を図った。また、町内の保育園・幼稚園での乗り方教室の実施や、保育園や児童館と協力して、ハロウィンバスやクリスマスバスなどを運行し利用促進を図った。	A	事業計画どおり運行回数が確保されている。	B	目標:63,261 実績:61,378(97.0%) ※前年度比98.3%	15.6	16.3	4.8	3.4	17.4	18.9	利用者の約5人に1人が市町を跨いでの利用となっており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。主に大府市にある長寿医療研究センターや農協関連複合施設(げんきの郷)の利用に使われている。 《広域的・幹線的系統》 知多乗合(大府循環線)	高齢者の利用が多いため、若年層にもっと利用してもらえるよう、町のイベントなどでう・ら・らのPRをより積極的に行っていくとともに、利便性を高める施策を実施していく必要がある。また、数年後には小学生の通学利用が減っていく可能性が高いため、通学利用者以外の住民の利用促進を図っていく必要がある。
06東海・半田・大府・常滑・美浜	南知多町	レスクル(株)	60 海っ子バス(豊浜線)	師崎港～河和駅	ホームページ、広報誌を活用したPR、時刻表の掲載、企画切符、無料デー等を実施するとともに、沿線町営バスとの乗り換え案内など公共交通利用の呼びかけを住民に行った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延はなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	目標:80,700 実績:81,461(100.9%) ※前年度比113.2%	30.2	31.8	2.0	15.9	34.4	34.5	町を跨ぐ利用者は、月平均3,765人で全体の68%を占めており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。町境を超える病院への通院や鉄道駅(河和駅)の利用が多い。 《地域的・フィーダー的系統》 (南知多町)海っ子バス(西海岸線)	前年と比べ利用者数が増加したが、引き続き鉄道、船舶等の関係機関と連携して、地域住民の利用促進が進む取組みが必要である。

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

東海市地域公共交通会議

平成22年2月17日設置

フィーダー系統 平成30年6月29日 確保維持計画策定等

【地域特性】

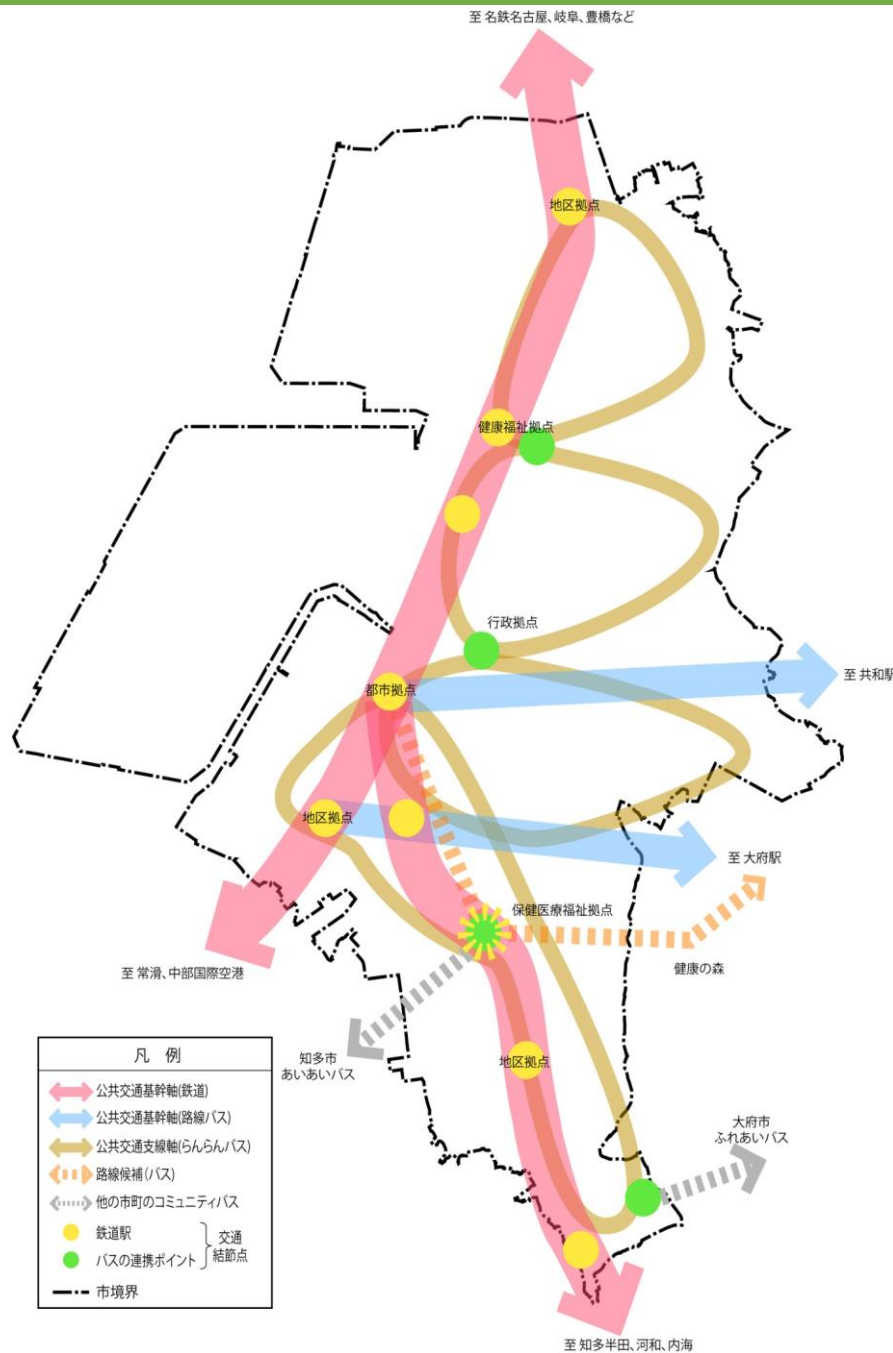
市内には、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅と知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により、南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市と太田川駅を連絡する独自路線バス（上野台線・横須賀線）により、東西の公共交通基幹軸が形成されている。

また、市内の各拠点及び公共施設や住宅地域を結びながら東西・南北の公共交通基幹軸を地域的に補完し、地域内フィーダー交通という形で、循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。

【東海市地域公共交通網形成計画の目標及び期間】

- 目標：**
- ①地域の骨格を形成する公共交通の構築
 - ②だれもが利用しやすい交通環境の構築
 - ③公共交通間の連携強化
 - ④まちづくりと連携した公共交通体系の構築
 - ⑤環境や健康に配慮して、かしこく公共交通を使う
 - ⑥地域で支える公共交通
 - ⑦公共交通を使った高齢者の外出促進
 - ⑧公共交通を使った観光や買い物での交流人口の拡大

計画の期間：平成28年度～令和5年度の8年間



【主な取組み】

1. 地域からの意見聴取結果を精査した、路線等の改正案の検討

- ・東海市地域公共交通会議を4回開催し、利便性の向上等を目的とした改正案の協議を行った

2. 小学生を対象としたモビリティ・マネジメントの実施

- ・バス事業者と協力し、市内小学校（2校）を対象にバスに親しむ機会の創生のため、バスの乗り方教室を実施した



乗り方教室

3. 免許証自主返納者に循環バス回数券やタクシー利用助成券を配布

- ・高齢者運転免許証自主返納推進策として、循環バス回数券やタクシー利用助成券を配布し、運転免許証返納後の足の確保だけでなく、循環バスやタクシーの利用促進にも寄与している



回数券と助成券

4. 「公共交通おでかけマップ」の配布

- ・「総合時刻表」とともに、「公共交通おでかけマップ」を市の窓口や太田川駅前の観光案内所等で配布し、公共交通機関の利用促進に努めた



おでかけマップ

5. 大府市循環バスとバス停を共同利用

- ・大府市循環バスの東海市内への乗り入れに際し、らんらんバスのバス停を共同利用した

【網形成計画における評価に係る事項】

成果指標	平成30年度目標値	平成30年度現況値	達成状況
市内鉄道乗降客数	45,500人/日	54,077人/日	達成
市内路線バス利用者数	367,000人/年	281,000人/年	未達成
らんらんバス利用者数	350,000人/年	439,172人/年	達成
買い物、通勤、通学などの日常生活の移動がしやすいと思う人の割合	60.1%	60.5%	達成

◆目標達成状況に対する考察と今後の方針

成果指標達成項目

考察	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者循環バス利用促進事業により、らんらんバス利用者は増え続けている ・らんらんバス利用者の多くは鉄道駅で乗降しており、利用者増加の相乗効果があった
方針	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度実施予定のG T F S - J P化や、ネットワークを利用したバスロケの導入で利便性を向上させ、特に通勤・通学での利用増を図る

成果指標未達成項目

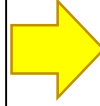
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・上野台線の利用者数が減少 ・横須賀線の利用者は増えているが、東海市内の移動での利用者は非常に少ない
方針	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス沿線でのMMを実施する際にP Rを強化する ・路線バスは運転手不足等により、計画策定時と比べ減便しているため、目標の修正(下方修正)を検討する

課題

対応方針

1. 路線バスの利用者減少

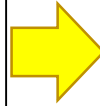
- ・路線バスは、全体として利用者が減少
- ・運転手不足を背景とした減便も、利用者減少の一因



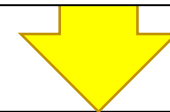
- ・上野台バス停から、大府市循環バスへの乗り継ぎができることを、東海市内でもPRする
- ・来年度実施を予定している循環バスの乗り方教室等、地域や高齢者に対するMMを実施する際に、路線バスの利用についてもPRする

2. 利用者増による遅延の発生

- ・らんらんバスの利用者は増加しているが、乗降時間の増加で遅延が発生
- ・高齢利用者の立ち席利用の増加により、転倒事故等も懸念される



- ・定時運行が困難となっている時間帯においては、所要時間を延ばす等の調整を実施
- ・利用者の少ない朝夕の時間帯については、通勤・通学者の利用を目的とした改定を実施



対応方針の実現に向けた取り組み

- ・らんらんバスの課題解決に向けたダイヤ改正を、令和2年10月に実施する
- ・令和2年6月頃から、ダイヤ改正内容の説明会を複数回予定し、地域住民への周知を図る。また、併せて高齢者向けのMMを実施する
- ・令和2年4月から、65～74歳の運転免許証自主返納者を対象に、らんらんバス無料乗車証を発行し、利用促進と高齢者の交通安全対策（運転免許証自主返納促進）の実施を予定している

令和元年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

東海市地域公共交通会議

平成22年2月17日設置

フィーダー系統 平成25年6月28日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
高齢者に対し、生涯学習講座を利用してモビリティ・マネジメントを実施したことを評価する。今後は外出促進や運転免許証返納につなげていくことを期待する。	75歳以上の循環バス利用者の増加や、運転免許証自主返納者の増加から、外出促進や運転免許証返納に一定の効果があつたと見受けられる。 (※)	福祉部局と連携し、高齢者に対するモビリティ・マネジメントやダイヤ及びルート改正の概要の説明を検討していく。
「公共交通おでかけマップ」の配布により利用促進に努めたことを評価する。	引き続き、「公共交通おでかけマップ」の配布により公共交通機関の利用促進に努めた。	引き続き、「公共交通おでかけマップ」の配布により公共交通機関の利用促進に努める。ダイヤ及びルート改正時の刷新については今後検討。
コミュニティバス路線等の見直しに先立ち、地域の意見を集め、問題や課題を分析したことを評価する。ダイヤ及びルート改正に反映されることを期待する。	意見聴取の結果を精査しながら、令和元年度の地域公共交通会議において、見直し案を策定・検討している。	2020年10月から新たなダイヤ・ルートでの運行を予定している。

※ 75歳以上高齢者無料乗車人数：H29年度 139,224人 H30年度 154,511人 R01年度(H31.4～R01.09) 85,463人

高齢者運転免許証自主返納支援事業利用人数：H29年度 210人 H30年度 204人 R01年度(H31.4～R01.12) 266人

1. 大府市循環バスとバス停を共同利用

- ・大府市循環バスの東海市内の『上野台』バス停への乗り入れに際し、交通安全や管理上の観点から、限られたスペースを有効に利用するために、共同してバス停を利用することとしたもの
- ・公共交通の乗り入れなどの広域連携は、公共交通の相互アクセスが可能となり、市民の利便性が向上し、また、接続する知多バス「上野台線」の利用増加も期待される



緑枠・・・東海市が利用
 青枠・・・大府市が利用
 ※バス停の管理は東海市が実施

2. 小学生を対象としたモビリティ・マネジメントの実施

- ・路線バスを利用したことがなく、乗降の仕方を知らない児童が多数存在するめ、知多乗合株式会社と協力し、バスの乗り方教室を2回実施したもの
 - ◇富木島小学校（1年生4クラス）
 - ◇明倫小学校（2年生2クラス）
- ・バスに親しむとともに理解と関心を深め、将来の利用者の増加につなげる

